



復元された五戸代官所。手前の五戸代官所の門(町指定文化財)は1862(文久2)年に建造されたもので、代官所の復元に併せて現在地に移築された。=2021(令和3)年5月20日・筆者撮影

五戸町は代官所を核とし、五戸通の政治経済の中心地として発展した歴史ある町である。現在の町割り

は、1595(文禄4)年に五戸中興の祖とも呼ばれる木村2代世襲代官の秀勝(奎助)が、代官所機能を現在の位置(五戸川右岸の台地)に移転させたことを始まりとする。

寛永年間(1630年前後)に南部藩の通制度と代官制度が整備され、五戸代官所も設置されたと推定される。代官所設置により、

五戸の中心は徐々に上町に移行し、伝馬継所や制札場も下町から上町に移設され

旧代官所建物を再利用して斗南藩初代藩庁(1870(明治3)年にむつ市へ移転)や、青森県庁五戸支庁(1875(明治8)年に廃止)が置かれるなど、明治時代初期まで「政治の中心」であり続けた。

県庁五戸支庁が廃止されたことから、1877(明治10)年に五戸村は県から支庁舎の無償譲渡を受け、五戸小学校とした。代官所跡は「教育の中心」となったのである。

1995(平成7)年竣工のひばり野スポーツ交流センターのモデルになるなど、町民に懐かしい風景として記憶されている。

町役場が移転し、三度も空白地となった代官所跡を和田寛食料工業(現ワダカン)の醸造工場跡地と一体で再開発する機運が高まるのは、1992(平成4)年のことである。町民の要望を受け、1998(平成10)年に代官所跡は図書館を中心とした「文化の中心」歴史みらいパークとして生まれ変わり、代官所も約130年ぶりに復元された。現在は五戸まつりや春祭りの会場としても使用され、町民の憩いの場として親しまれている。

五戸の中心

「五戸代官所」

村本 恵一郎

(五戸町教育委員会 教育課 社会教育班長)

た。

5代続いた木村世襲代官時代は1697(元禄10)年に終り、以降は盛岡から代官が派遣されることになった。最大石高約1万7千石を有した広大な五戸通を統治する五戸代官所は、まさに「政治の中心」だった。

江戸幕府の終焉と共に五戸代官所もその役目を終えた。極短い期間だったが、

1925(大正14)年に現在地へと移転した。

再び空白地となった代官所跡だったが、翌年に五戸町(1915(大正4)年町制施行)は校舎を町役場庁舎として再利用したため、「政治の中心」に戻った。町役場は1984(昭和59)年に現在地へと移転するまで当時の校舎を使用し続けた。その外観は

親しまれている。

数奇な運命をたどった五戸代官所跡だったが、いつの時代も五戸の中心であった。歴史みらいパークの整備から約20年経過した現在、五戸町では時代に即した公園とすべく、リノベーションの検討を進めている。これからも代官所跡は、形を変えながら五戸の中心であり続けるであろう。

青森県青森市640号
青森県人会 2021年8月